

あつちし



第 104 号

2020 年 6 月
日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>



佐佐木信綱の「夏は来ぬ」の歌詞にあるように、この会報が届く頃は麦も稔り、ホトトギスが鳴き、初夏の清々しい季節なはずである。

ところが今、コロナウイルスへの対応で残念ながら、我々も探鳥会をすべて中止している。そもそも探鳥会は野鳥を見ることと、会員相互の交歓を兼ねた催しで、中西悟堂が1934年6月2日から3日に富士の裾野須走で開いたが最初であり、以降、野鳥の会の中心行事として続いてきた。

しかし、当会の活動は探鳥会だけではない。一人で鳥を見る人、野鳥を撮影する人も多い。また、鳥の記録を取る人もある。これら一人での野外活動はなんら、人との接触、接近を前提としない。野外の空気が部分的であれ、高濃度のウイルスに汚染されているという可能性は野球観戦やある種

のスポーツ競技などの場合を別としてほとんどない。したがってウイルスの感染の可能性は極めて低い。外出自粛と言われているが、外出イコール人との接触である都市部とは違い、我々のホームグラウンドである三重では人と接触、接近しない外出方法はいくらでもある。歩いて、自転車、自家用車で。これを機会に一人で鳥を見る楽しみを膨らませてみよう。

探鳥会では参加者の多数が楽しめるよう、1羽の鳥をじっくり見るということはなかなかできない。また、識別の疑問点も解消されずに終わることもある。一人で見る鳥はまた、違った楽しさができるであろう。識別に自信のない人はこれを機会に図鑑を見ながら、似たように見える鳥とどこが違うのかじっくり見てみよう。特にシギ・チドリはだめ、という人もベテランの会員の中にすらい多い。自分で図鑑を見ながら、覚えた鳥は絶対に忘れない。探鳥会で人から識別を教えてもらって

目次

野にいでよ、野にいでよ	2
表紙の言葉	2
カムチャツカ西岸の動物相	3
ヒレンジャクの当たり年	4
レンジャクの飛来	5
オオミズナギドリの思い出	6
私の大事な経ヶ峰	8
経ヶ峰風力発電所建設計画の変更	9
木曾岬干拓地、チュウヒモニタリング調査 についての抗議	9
私の野鳥ノートから	10
事務局だより	11
舩倉島など離島への渡航自粛	11
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化 一連載第20回 ヒバリシギ、ヒメウズラシギ	12
理事会報告	16
日本野鳥の会三重 2020年 総会	17
日本野鳥の会 三重 令和2年度 予算書(案)	19
野鳥記録	20
探鳥会予告 7月-9月	24
探鳥会報告 (2020年1月~2020年4月)	25
編集後記	28

当会で予定している7月および8月の探鳥会は中止にいたします。詳しくは24ページをごらんください。

表紙の言葉

ツバメ

松阪市 中村 真理子

3月、毎年店先に子育てに来るツバメの到着が楽しみだ。先に到着した雄が古巣を毎日確認しに来る。その後しばらくして雌が到着。中古物件の補修工事が終わったらいよいよ始まる。このわずかな期間は仕事場の音楽を止め、日に日に賑やかになっていくヒナたちの声がBGM。

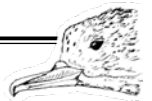
今年はどんなドラマが繰り広げられるのだろう。大家はせっせと掃除をし、時にカラスを追い回し、かわいいお客様の子育てを見守る。

も、すぐ忘れるのが常である。また、早朝に鳥を見ることも面白い。探鳥会の多くは10時開始の設定であるが、鳥を見るには早い方がずっとよい。夜明け頃から出かけるのもよい。空が白々と夜が明ける頃、山手ではクロツグミが鳴き始める。谷間ではミソサザイが長いトリルを聞かせる。また、テーマを決めて鳥を調べるのもよい。同じコースを歩いて、季節の移り変わりでのどのように鳥が変化するのか。また、ウグイスのさえずりは何か所で聞かれるのか？色々なテーマが考えられる。

いかに一人で行動するといっても、公園など人出の多い場所は避けるべきであるし、偶然会った人と会話するにしても必要な距離を話して付き合うべきであるし、マスクを携帯することも必要であろう。

人類は今回のコロナのような疫病を幾度か乗り越えてきた。ヨーロッパでは度重なるペストの被害を受けた。とくに14世紀の黒死病ではヨーロッパの人口の20%が失われたという。今回のコロナウイルスが最終的に人類にどのような被害をもたらすのか、まだ分からない。しかし、自然を楽しむ、というのは人間の本性に基づくものであろう。我々も野鳥を見る楽しみを忘れないでいよう。

カムチャツカ西岸の動物相



ロシア天然資源環境省 全ロシア環境保護研究所 上級研究員
ドミトリー・ドロフィーエフ
Dmitry Dorofeev Дмитрий Дорощеев

ハイリューソヴァ川の河口には様々なシギ・チドリの他に、オオワシ、ハヤブサ、チゴハヤブサもいる。また、スズメ目の小鳥は少ないが、8月の初めからの渡りの時期にはホオジロ類が多くなる。我々の調査用キャンプ周囲のツンドラのような場所ではクロトウゾクカモメ、アジサシ、コシジロアジサシが繁殖している。ベロゴロヴァヤ川に沿った場所ではカモ類が繁殖している。マガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ウミアイサ、ヒシクイ、など。2018年から2019年にかけて我々は10羽のヒシクイに首輪を付けた。そのうち、いくつかは日本と韓国で発見され、報告されている。我々は黄色い首輪を付けていたが、2020年からは白い首輪にした。

この両川ではいくつかのサケ科の魚が遡上し産卵する。最も多いのはサケとカラフトマスである。しかしその他にも多くのベニザケ、ギンザケ、マスノスケ（キングサーモン）、サクラマスも産卵する。地元の漁師はしばしば Arctic Char（イワナの類）、



シロイルカ

アメマスを捕獲する。近くの海には King Crab（タラバガニの仲間）がいる。

サケ類がたくさんいるので当然哺乳類も引き寄せられる。満潮時にはシロイルカが河口でたくさん見られる。アゴヒゲアザラシ、ゴマフアザラシは極めて普通である。魚が多いので当然ヒグマも引き寄せられるので、我々のキャンプは電気柵で守られている。

訳 平井正志

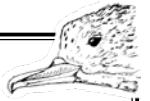
（前号「しろちどり」103号の記事の続きです。誌面の都合で前号に入りきりませんでした。）

おわび：前号「しろちどり」103号 5ページのミヤコドリの写真の撮影者は田中富夫さんでした。編集部の不手際をおわび申し上げます。



ホウロクシギ

ヒレンジャクの当たり年



いなべ市 鈴木 健真

今冬はヒレンジャクの大当たり年で、あちこちから観察情報が聞かれました。私も愛知県内一か所、三重県内6か所で観察することができました。

私はレンジャクの渡りについてある疑問がわきました。それは、このレンジャクたちは、どうやって越冬地を決定しているのかということです。ある説としてレンジャクは、日本海側で大雪が降る年はこちらにやってくるというのがよく聞かれます。しかし、今冬は暖冬で日本海側は記録的な少雪になったはずです。つまり、上記の説に今年は当てはまらなかったこととなります。

ますます謎が深まったレンジャクの渡りでした。

ヒレンジャクの好物

野鳥好きにとって「ヒレンジャクといえばヤドリギ。ヤドリギといえばヒレンジャク。」と皆さんがこんな感じではないでしょうか。ところが最近、そんな当たり前が変わっている？ そんな話題です。

前述の三重県内6か所の観察では、一度もヤ

ドリギを食べている姿を観察できませんでした。それどころか目の前にヤドリギがあるのに、クロガネモチやキヅタの実を食べている姿まで観察しました。これには、いろいろな要因が考えられるかと思えます。

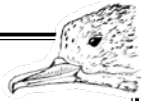
昨今冬鳥がこのあたりに渡ってくる数が少なくなったのではと耳にします。そのことから、餌となる木の実があちこちに豊富にありヤドリギを食べる必要がなくなったのでは無いかという説が一つあるのかと考えました。いずれにせよ、目の前にヤドリギがあるのに他の実を食べているヒレンジャクはヤドリギがそこまで好きではなかったのかも、そんなことを思うのでした。

しかし、他所では今冬もヤドリギを食べているヒレンジャクの姿が多数観察されています。私の運が悪く、たまたまヤドリギを食べているところを観察できなかつただけかもしれません。ああだこうだ野鳥について考えると楽しいです。

皆さんはこのレンジャクとヤドリギの関係についてどう思われますか？



電線の上で休むヒレンジャクの群れ



冬鳥を観察する者にとって、レンジャクは見てみたい鳥のひとつです。しかし、ルリビタキやベニマシコと違い、毎年のように飛来することはなく数年置きにしか見られません。ですが、飛来すると目撃例が頻繁に報告されます。前は2018年2月に多く観察されました。今回は2020年初めに知り合いから河川敷の公園に来ているよと連絡をうけ、その後あちこちで目撃情報が入って来て、この冬はレンジャク観察の当たり年となりました。

団地の公園

3月8日夕方、近くに住む会員の方から、近所の公園にレンジャクがいるよと連絡がありました。そこはよく通りますが、木の実が豊富にある様なところではありません。見に行くとポプラの上に30羽ほどの群れがとまっていたのですが、その日は暗くなってきたので観察は諦めて帰りました。ここは餌になる様な木が無いと思ったので、ねぐらにするために立ち寄ったのだろうと推測しました。翌朝、会員の方がさらに増えていると連絡をくれて見に行くと公園の柳の新芽を食べるレンジャクが50羽以上いました。木の新芽も食べるのかと思って見ていると、前日の大雨から一転、雲ひとつない天気となり気温が上昇して周囲に虫が飛び交い始めました。するとレンジャクは高木へ上って行きフライングキャッチを何度も繰り返していました。そして、予想通り柳の新芽では物足りなかったようで、翌日には姿が見えなくなりました。



ポプラの新芽を食べるキレンジャク

伊坂ダム

伊坂ダムには周囲に桜の木が植えられ、その新芽を目当てに3月にはウソが飛来します。3月12日にウソを観察に行こうと出かけてみると代わりにレンジャクがいました。レンジャクは桜の木の樹洞に沸く虫を食べていて、さらにクロガネモチの実を交互に食べダムの水を飲みに行くという行動を繰り返していました。このころは連日晴れて春のような陽気が続きポプラの新芽が膨らんできたので、レンジャクは、それもむさぼる様に食べていました。そして、17日にはクロガネモチの実を食べつくして去って行きました。

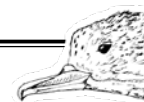


クロガネモチの実を食べるヒレンジャク

すべて食べつくす勢いで

4月に入ってもレンジャクを見たよと言う連絡が入ってきます。私も買い物に行く際、信号待ちで交差点に止まったら、目の前の街路樹に鳥の鳴き声が聞こえたので見上げてみるとレンジャクが20羽ほど私の車の上を飛び回っていました。ここは自然が豊かと言うには程遠い場所なのに群れています。レンジャクは繁殖地へ向かう際に栄養を蓄えるために木の実や新芽などを食べつくす勢いで移動している様でした。そうしないと、いざ繁殖に入る時に体力が持たないのではないのでしょうか。それほど繁殖は大変なことのようです。

オオミズナギドリの思い出



津市 平井 正志

オオミズナギドリと言っても探鳥会で見られる鳥ではない、知っている方は限られるかもしれない。日本近海の離島で繁殖する海鳥。翼を広げると全幅約 120 cm。三重県 紀伊長島の沖に浮かぶ無人島、大島でも繁殖している。海鳥と言ってもカモメ類とは違い、めったに陸地に近づくことはない。しかし、伊勢湾フェリーで沖に出ると長い翼を水平に広げ、波間を巧みに滑空するこの鳥を見ることができる。羽色は白黒であるが、頭はゴマ塩でやや白っぽく見える。同じく日本近海で見られるミズナギドリ類にハシボソミズナギドリがあるが、こちらはやや小さく、翼、体の上面は黒いのですぐに見分けがつく。



オオミズナギドリ

仕事は夜である。ミズナギドリは海上では巧みに滑空を繰り返すが、陸上では極めてぎこちない。着地する時もドサッと降りる。テントの上に墜落するものもある。しかし、頑丈にできているのであろう。怪我をした鳥を見たことがない。鳥が着地し始めると、けたたましい鳴き声で島は騒然となる。地上では人を見ると歩いて逃げる。よちよち歩きで、簡単に捕まる。しかし、体は大きく、くちばしは鋭いので、噛まれないようにしなければならぬ。扱うのにちょっとしたコツがいる。



大島（紀伊長島）、遠景は大台ヶ原山系

もうかなり、昔、仕事で京都に赴任していた頃、友達のバンダーと京都府の冠島のオオミズナギドリを何度か調査した。冠島は、舞鶴湾沖の日本海に浮かぶ無人島。1年に一度、島の老人島（おいとしま）神社のお祭りの時以外に地元の漁師も上陸しない。オオミズナギドリは夏に島に飛来し、地面の穴に卵を1個だけ生み、ヒナを育てる。ヒナに給餌のため、島に降りるのは夜である。それを狙って、捕獲し、足環を付ける。島に宿泊施設は無いので、テントで何日か過ごさなければならない。



海上を飛ぶオオミズナギドリの群れ

京都市内の大学の学生も大勢同行していた。私が行くようになる以前から足環が付けられていた。ある時、学生が鳥を捕まえ、足環を調べると「あっ、私よりお兄さんだ」と言った。ミズナギドリは長寿な鳥で、20歳以上もザラにいる。最高記録では36歳のものが報告されている。この冠島で足環と付けられた鳥である。



海へ飛び出すため、木に登る
オオミズナギドリ（冠島にて）

朝、暗い内から彼らは海上へ飛び立つ。飛び立つにはカワウと同じようにかなり長い距離の助走が必要で、海岸から飛び立つか、あるいは高い岩や木に登って、そこから滑空して、海に向かう。オオミズナギドリが飛び立ってしまうと島に静寂が戻る。オオミズナギドリのいない昼間は何もすることがない。海を見たり、昼寝をしたり、絵を描いたりしてのんびりとした。



オオミズナギドリのヒナ、標識調査
のために捕獲したもの（冠島にて）

一年の大半を海上で暮らし、繁殖の時だけ、陸地に近づく。これはアホウドリ、ウミスズメ、ウミツバメ類と同じである。また、足環からのデータによるとヒナは巣立ちすると4年間は海上で生活し、島には戻らないとのことである。彼らには海こそ我が家なのである。

オオミズナギドリについて近年やっかいな問題がある。かつて推定175万から350万羽が繁殖していたとされる、伊豆諸島、御蔵島ではノラネコが増え、卵やヒナを食べるため、繁殖数が激減し、2019年には推定11万7千羽まで減少しているという。



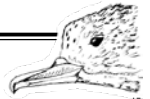
夜明け、冠島を飛び立つオオミズナギドリ

最近、環境省の事業として三重県 紀伊長島沖の大島のオオミズナギドリの調査が2019年9月11日から12日に行われた。巣穴の数も、利用されていると推定される巣穴の数も、2010年の調査当時から大きく減少していた。

繁殖が継続されていることが判明したが、ヒナは見つからなかったとのことである。また、ネズミの生息も確認された。無人島であり、本来ネズミはいないはずだが、たまに接岸する船が持ち込んだものに違いない。ドブネズミが生息すると卵やヒナを捕食するため、若鳥が巣立たなくなる。冠島でもドブネズミが確認されている。しかし、どれくらいなヒナが犠牲になっているのか詳しい調査はされていないし、結構難しい。

最近能登半島沖の無人島、七ツ島のひとつ大島で殺鼠剤を用いたネズミの駆除が始まり、かなり効果が出ているとのことである。紀伊長島沖の大島でも早急に調査し、ネズミを駆除してほしいものである。一度、大島の個体群が絶滅すると回復するには膨大な労力と気の遠くなるような年月がかかるだろう。

私の大事な経ヶ峰



津市 岡八智子

15,6年前、息子達が巣立った後の寂しさから立ち直してくれたのが鳥と蝶との偶然の出会いでした。それぞれ素晴らしい方達とも出会いが増え楽しい毎が始まりました。

ある時、仲間と安濃ダムから笹子谷林道に入り、奥の駐車場から登山口まで溪流沿いに林道を案内して頂きました。美しい溪流のミソサザイやオオルリ・キセキレイ、エビネ等の山野草、珍しい雑木等の出会いに本当に感動しました。1年間定点観察をすることになり、毎月の変化の素晴らしい楽しさを楽しみました。

1994年から2008年まで県営林道経ヶ峰線の建設が計画され、工事車両も行きかかっていました。「長野から笹子谷へ経ヶ峰山頂近くを廻る林道とか。」「経ヶ峰へバリアフリーでも行ける・・・林業の発展・R163から安濃ダムへ観光の為とか・・・」でも工事は難しく2008年には出来ず、2018年まで延長してもとてもできていません。

何度かの集中豪雨でその林道も通行止めになり、あの美しかった溪流も倒木で見える影もなくなりました。経ヶ峰は地盤が軟弱なのです。あんなにたくさんいた鳥も減り、山野草も、雑木もすっ

かり無くなりました。この道路工事も影響したのでは・・・先日本当に久しぶりにこの林道を歩きましたがその崩壊ぶりに悲しくなりました。

10年前から山登りを再開しました。植林の経ヶ峰は以前から好きでなかったのですが、“北笠岳～嘉嶺の頭”を廻った時、西側の雑木の山並に感動しました。きっと植林ができなかったのでしょうか？“嘉嶺の頭”から眼下に大きなピンクのヤマボウシがあります。ヤマザクラも圧巻です。ここからの眺めが最高で一番のお気に入りの頂きです。

と、ここに風車が！！風車も大事ですがここに・・・何故ここに・・・

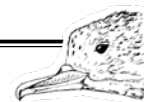
林道経ヶ峰線の長野側がだいぶ進み尾根までできた様でその先が出来るのを予想して、風車問題が起こったのでしょうか？地元の学校の校歌に多く歌われて皆が愛してる経ヶ峰に風車が・・・皆さんの反対運動の署名のお陰で何とか東の方は免れる様ですが西側に9基立つ予定とか・・・“嘉嶺の頭”からやはり目の前にその姿は見たくありません。今年も6月中旬、ピンクのヤマボウシを見に行きたいと思います。



ミソサザイ



経ヶ峰に咲くヤマボウシ



2020年4月1日 平井と経ヶ峰を愛する会事務局の長坂基史氏はグリーンパワーインベストメントの川口和希氏（同社名古屋事務所）と会った。川口氏から経ヶ峰、長野峠付近の山並に計画されている2つの風力発電についての会社側の変更計画が伝えられた。

公表された計画によると、経ヶ峰山頂付近に計画されていた風力発電(3000Kw級 16基)は中止、長野峠北側の計画(3000Kw級 8基)は1基増やして、9基とする。ただし風車の大きさ（発電能力については明言を避け、さらに大きなものにする可能性が示唆された）。

これにより安濃町、津市市街地のかなりの部分から眺望は改善されたが、美里町、芸濃町、伊賀市阿波地区周辺からは依然風車が見える状態である。さらに周辺に生息するクマタカについてはむしろ、脅威が残るが、これについての対策などは川口氏からは聞くことができなかった。なお、計画変更については4月3日の中日新聞に掲載された。

昨年2019年に津市内を中心に反対運動が盛り



風車が設置されれば危機にさらされるクマタカ

上がり、多くの反対署名があつまった。今回の変更は我々の運動の成果であるが、絶滅危惧種クマタカなど周辺に生息する鳥類への影響は避けがたい。これまで青山高原などに建てられた風車は最大でも2000Kwであり、今回計画されている3000Kwの風車は三重県で最大になり、野生生物や周辺住民への影響はこれまで以上大きくなるであろう。

木曾岬干拓地、チュウヒモニタリング調査についての抗議

チュウヒが繁殖し、今年も繁殖行動が見られている木曾岬干拓地で、三重県の委託している調査会社の調査員と思われる人が「2020年4月9日午前6時50分、自動車が木曾岬干拓地のメガソーラー南端から、南へ向かって中央道路を通り右折して排水機場へ行った。その後、メガソーラーの中の高くなったところで、一人の調査員がプラインドを使わずに堤防上からでも見える状態で観察をしていた。」

ことを当会会員が目撃しました。

これについて県担当者に問いただした結果、県がモニタリングを委託している「国際航業」の調査員であった。観察していた場所は我々が繁殖する可能性があると想定している場所から200m以内であると考えられます。意図はともあれ、チュウヒの繁殖を妨害することになりかねません。これについて当会は三重県知事宛に4月15日に抗議文を送りました。

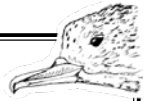
知事からの回答は5月15日までに寄せるように要望しています。この会報104号が発行される時には回答が送付されていると思われませんが、編集には間に合いません。回答の内容、およびそれに対する当会の態度、反論については次号105号、あるいはホームページに掲載する予定です。

(平井 正志)



木曾岬干拓地で繁殖するチュウヒ

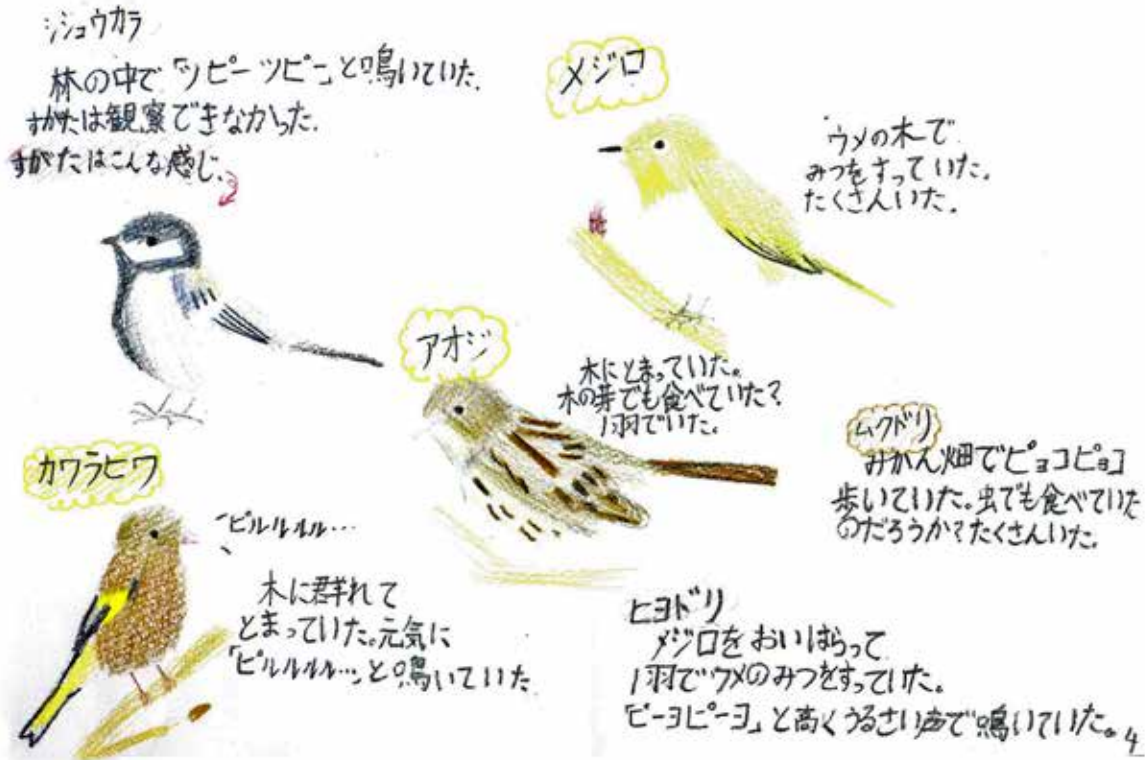
私の野鳥ノートから



鈴鹿市 山岡 みのり・ゆい

小学5年生の会員、山岡みのりさんからすてきな手紙が事務局に送られてきました。ここにその一部を紹介します。

絵もそれぞれの鳥の特徴をよく捉えており、説明も的確です。また、妹で、小学2年生のゆいさんのシロチドリの絵も紹介します。(編集部)



3/3(木)☀ 農芸高校の周りで観察

見られた鳥

- ・スズメ
 - ・ハシボトガラス
 - ・ハシボソガラス
 - ・シジュウカラ
 - ・カワラセウ
 - ・メジロ
 - ・アオジ
 - ・ムクドリ
 - ・ヒヨドリ
 - ・ツグミ
 - ・モズ
 - ・ホオジロ
 - ・ソクセキレイ
 - ・ウグイス
 - ・カルガモ
 - ・ジョウビタキ
- 計16種





シロチドリ 山岡ゆい (小学2年生)

事務局だより

活動の記録 (2020年2月～4月)

2020年

- 2月 会報誌「しろちどり第103号」編集作業
- 2 / 7 令和元年度 紀伊長島鳥獣保護区カワウ保護管理対策連絡協議会へ出席 (代表)
- 2 / 15 三重テレビでの「みえ風紀行」取材 (代表)
- 2 / 17 「松阪市三渡川特定猟具使用禁止区域 (銃猟)」の更新について意見書を提出
- 2 / 18 第3回ミヤコドリ一斉調査
- 3 / 6 会報誌「しろちどり第103号」発行・発送作業
- 3 / 1～20 県委託「令和元年度カワウねぐら・コロニー調査事業」実施
- 3 / 29 第3回理事会 (津市雲出市民センター)
- 3 / 31 木曾岬干拓地 開発計画についてSNSツイッターでコメント (副代表)
- 3月 2019年度決算作業・2020年度予算 (案) の検討
- 4月
- 4 / 18 木曾岬干拓地における開発計画のため、猛禽類のモニタリング調査での不適切行為に対して県へ抗議文を送付
- 4 / 19 足見川ソーラー問題 現地確認
- 4 / 28 三重県四日市建設事務所へ公共工事に絡む猛禽類の保護を要請・現地確認

舩倉島など離島への渡航自粛

先に日本野鳥の会石川の中村正男代表から舩倉島への渡航自粛のお願いが中部ブロックの各会に回された。舩倉島だけでなく、三宅島、石垣島などバードウォッチャーにとって訪ねたい場所である。また、県内でも答志島、神島などの離島もある。今回のコロナウイルスの伝搬の強さと、致死性、さらに離島の医療体制の脆弱性、住民の高齢化を考えると渡島を自粛すべきと考えられる。会員諸子、ならびに友人にも呼びかけ、当面は渡島しないようお願いしたい。
(平井正志)

シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化 —連載第20回 ヒバリシギ、ヒメウズラシギ—



津市 今井光昌

ヒバリシギは旅鳥で日本各地に渡来しますが、三重県への渡来数は春秋ともに少ない。特に成鳥の渡来が少なく、これまで春に観察したヒバリシギは1年目の若鳥1個体だけです。夏羽後期の個体であれば7月下旬から8月に1-2羽の成鳥が見られる年もありますが、5月頃のフレッシュな成鳥夏羽は三重県ではごく稀です。幼鳥は毎秋渡来しますが10羽を超えることはありません。南西諸島では多数越冬しているようですが、三重県での越冬は稀です。

ヒバリシギは水田や淡水湿地を好み、砂質の強い河口干潟や砂浜海岸で見るとはまずありません。幼鳥は小型シギの仲間であるヨーロッパパトウネンやトウネン、ウズラシギ、キリアイ等の幼鳥と羽色や羽模様が似ていますが、ヒ

バリシギは背にV字状の白線があり、頭頂はベレー帽をかぶったような模様で、黄緑色の足をしています。背のV字状の白線はヨーロッパパトウネンにもあります（トウネンにも白いV字線のある個体があります）。足色はウズラシギやキリアイと似ていますが、ヒバリシギの全長は13-15cmで、ウズラシギ（17-22cm）や、キリアイ（16-18cm）より一回り小さいです。

上記4種の小型シギの中ではヨーロッパパトウネン（12-14cm）が、足が長く細身の体形という点でヒバリシギと最も似ています。ただ、体形や足の長さは羽毛を膨らませていると分かりづらくなります。尚、ヨーロッパパトウネンとトウネンの足は普通は黒いですが、両種とも黄色味のある足色をした個体が稀にいます。



図1 ヒバリシギ幼鳥 2007.08.17



図2 ヨーロッパパトウネン幼鳥 2010.09.14

ヒバリシギとヨーロッパパトウネンの重要な識別点の一つが年齢に関係なく足色が違うことです。ヒバリシギの足は黄緑色で（図1）、ヨーロッパパトウネンの足は黒いです（図2）。ただ、多くの鳥に言えることですが、必ずと言っていいほど例外はあります。図3のヨーロッパパトウネンは足が黄緑色です。類似の種がいるときは、一つの特徴点だけでは識別できないことがあります。



図3 ヨーロッパパトウネン 成鳥夏羽 2013.05.12

ヒバリシギ夏羽



図4 ヒバリシギ 第1回夏羽 2009.04.29



図5 ヒバリシギ 第1回夏羽 2009.04.29

ヒバリシギ夏羽は頭上の赤褐色部が目立ち、体上面は暗色の太い軸斑と赤褐色の羽縁のコントラストが明瞭です。顔から胸の赤味は図3のヨーロッパトウネン夏羽の方が強いです。図4と図5は同一個体です。図4では幼羽と思われる羽は見えませんが、図5では雨覆や風切羽に褐色の

擦れた羽があります。擦れた羽を幼羽と見れば第1回夏羽ということになります。成鳥夏羽と第1回夏羽を擦れた羽があるかどうかだけで年齢の識別はできませんが、4月29日の夏羽の羽衣にしては擦れが激しいと思われることから、第1回夏羽の可能性が大きいです。

ヒバリシギ成鳥 夏羽後期



図6 ヒバリシギ成鳥 夏羽 2016.07.13



図7 ヒバリシギ成鳥 夏羽後期 2009.08.15

図6は赤褐色の羽縁が擦れで退色し黒ずんできた7月の夏羽です。図7は一段と擦れが進み全体に黒っぽくなった夏羽個体です。単に夏羽と

言っても春のフレッシュな夏羽と擦れた夏羽後期の羽衣では羽色が大きく違います。

ヒバリシギ成鳥 冬羽に換羽中

断定は出来ませんが、図8の成鳥は図7と同じ個体で、図7の35日後の羽衣と思われます。9月19日まで居残り夏羽後期の羽衣からほぼ冬羽と言えるまで換羽が進んでいます。一部に旧羽を残しますが肩羽や雨覆の大部分が冬羽に換羽しています。ヒバリシギの冬羽は顔・胸、体上面が灰褐色になります。



図8 ヒバリシギ成鳥 冬羽に換羽中 2009.09.19

ヒバリシギとヨーロッパトウネン 成鳥冬羽



図9 ヒバリシギ 成鳥冬羽 2010.12.11



図10 ヨーロッパトウネン 成鳥冬羽 2014.12.31

ヒバリシギ冬羽もヨーロッパトウネン冬羽も上面は灰褐色ですが、ヒバリシギの上面は暗色の軸斑

が大きく、淡色の羽縁が太く明瞭で、頭部から側胸に黒褐色の縦斑があります(図9-10)。

ヒバリシギとヨーロッパトウネン 第1回冬羽



図11 ヒバリシギ 第1回冬羽 2013.02.03



図12 ヨーロッパトウネン 第1回冬羽 2015.01.08

図9のヒバリシギ成鳥は冬羽に全換羽しており上面各羽に丸味があります。図11の個体は肩羽と雨覆の一部は冬羽ですが、白い羽縁のある尖り気味の擦れた幼羽が雨覆に残っています。三列風切にも茶色の羽縁のある幼羽が見え、初列風切に

も擦れがあります。ヒバリシギとヨーロッパトウネンの冬羽は似ていますが、ヒバリシギは軸斑が大きいのでヨーロッパトウネンより体全体が暗色に見えます(図11-12)。両種とも翼下面は白く、翼上面には細い翼帯が出ます(図13-14)。



図 13 ヒバリシギ 幼鳥 2007.08.25



図 14 ヨーロッパトウネン 幼鳥 2016.09.03

ヒバリシギの特徴



図 15 ヒバリシギ 幼鳥



図 16 ヒバリシギ 幼鳥



図 17 ヒバリシギ 幼鳥



図 18 ヨーロッパトウネン 幼鳥



図 19 ヨーロッパトウネン 幼鳥



図 20 ウズラシギ 幼鳥

ヒバリシギの特徴は、頭上の褐色部が嘴基部まで延びていること（図 15）、三列風切が初列風切を覆っていること、（図 16）足趾が長く特に中趾が長いこと（図 17）などです。一方、ヨーロッパトウネンは頭上の褐色部が嘴基部まで届かず、眉斑の白色が嘴上部で繋がっており（図 18）、初列風切は三列風切より突出しています（図 19）。また、図 20 のウズラシギとはベレー帽をかぶっ

たような頭部の模様と上面の羽模様が似ていますが、両種は体下面の模様が違い、足趾もウズラシギの方が短いです。

一つの特徴だけを取り上げて種の識別をするには無理があります。三列風切や初列風切も摩耗や伸長中で短いこともあるからです。図 16 のヒバリシギの足色が黒く見えるのも泥が付着して黄緑色の足が黒くなっているからです。

ヒメウズラシギ

日本では稀な旅鳥として砂浜海岸や河口干潟に渡来しますが、殆どの記録が秋の幼鳥です。三重県での記録は雲出川河口で2012.10.10に観察された幼鳥1羽だけだと思います。全長は15cm程でトウネンよりはやや大きく、ハマシギよりは小さい。幼鳥は体上面の軸斑が黒褐色で淡色の羽縁が

あり鱗状に見えます。頸から胸はバフ色味を帯び黒褐色の斑があります。初列風切が長く尾羽より大きく突出しています。2012年に三重県に渡来した時に撮影できていないので、2007年に愛知県で撮影した写真を使用しています(図21-22)。



図21 ヒメウズラシギ 幼鳥 2007.09.04



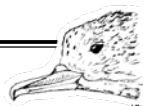
図22 ヒメウズラシギ 幼鳥 2007.09.04

最後に

今回で連載第20回目を迎えました。これまでに三重県で観察記録があり、且つ写真が撮れたシギ科の38種を取り上げてきました。三重県で記録のあるシギ科の鳥は2020年3月時点で47種と把握しています。その47種の内、チシマシギ、

オオキアシシギ、ハリモモチウシャクの3種が撮影できていません。尚、シギ科で残るのはヒレアシギ科に分類されることもあるヒレアシギ属2種とジシギ類(タシギ属5種)です。次回21回目以降で取り上げたいと思います。

理事会報告



2020年3月29日(日) 津市雲出市民センター

出席：10名

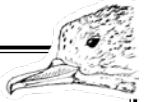
【協議事項】

- 木曾岬干拓地 開発問題
南部太陽光パネル以南の改変
・絶滅危惧種の生息・繁殖に最低でも今の面積が必要。開発は言語道断 → 声明文
- 新型コロナウイルス感染対応
・4～6月の探鳥会は中止
・一人探鳥会の結果を会報に掲載する
・随時探鳥報告の呼びかけ、随時探鳥記録の収集
・コロナの状況によっては会報の増刊号も検討する

- 総会/野鳥講座 中止
・事業報告、事業計画、決算、予算などは理事会の決定をもって、総会の決定とみなす
・その要旨を会報「しろちどり104号」に掲載
- 繁殖調査
会として必要な調査とは？
鈴鹿山脈 随時調査を行う
- その他
・会の幟(のぼり)製作
・会報 第103号の公開

【報告事項】

- 足見川の現状
・業者がビオトープ整備を進めている



2020年6月28日に予定されていた、2020年度総会はコロナウイルス拡散防止のため、行いませんが、総会用に作成した文書を、理事に回覧し、E-メールなどで承認を受けました。回覧した文書の要約をここに掲載します。なお、企画部の活動報告、活動計画はしろちどり各号の探鳥会報告、及び行事案内を参照ください。

2019年度 活動報告

2019年度 保護部活動報告

1. 津市サシバ営巣地での太陽光発電
2019年6月10日 津市波瀬のサシバ営巣地に計画されている太陽光発電環境影響評価準備書について、計画に反対する意見書を開発業者に提出した。
2. 経ヶ峰風力発電
経ヶ峰山頂付近、および長野峠北側山稜に計画された2か所の風力発電の方法書に対して、計画2019年2月および3月に反対の意見を提出した。また、「経ヶ峰を愛する会」の反対署名運動に協力した。署名は12,670筆集まり、5月17日津市長、三重県知事に提出された。2020年4月1日 風力発電の計画変更が公表され、経ヶ峰山頂付近の計画は取り下げられたが、長野峠北側山稜の計画は維持、拡大されている。当会は引き続き、反対する。
3. 足見川メガソーラー発電
三重県知事意見に従わずに開発が行われている足見川メガソーラー事業の対象地区でサシバの繁殖状況を調査した。
4. 木曾岬干拓地でのチュウヒ保護
愛知県支部等と共同でチュウヒの繁殖等を毎月調査している。また、冬季にはチュウヒのねぐら入り調査も行った。三重県は木曾岬干拓地自然環境保全審議会で、さらなる開発(メガソーラーの南側の運動広場約100haの環境影響評価を行う条件を決定した。この審議会の決定内容には問題点があり、三重県と協議している。さらに決定した条件の確認のためのモニタリング調査で、チュウヒの繁殖に影響を及ぼす事実が見つかったため、三重県に適切な対応を求めている。
5. ミヤコドリ一斉調査
2019年12月23日、2020年1月20日、2月18日 3回調査を行った。

2019年度 研究部活動報告

- ガンカモ調査
1. 2020年1月 県の委託により行った。県内166か所を調査し、県に報告した。
 2. モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査
春期、秋期、冬季の年3時期にシギ・チドリ類、ズグロカモメについて実施。
一般サイト：鈴鹿川河口～鈴鹿派川河口、豊津浦～町屋浦、香良洲海岸、
コアサイト：安濃川河口～志登茂川河口、雲出川河口五主海岸、阪内川河口、愛宕川から櫛田川河口(春季：カラシラサギ、冬季：ソリハシセイタカシギ)
 3. カワウねぐらコロニー調査(県委託)
2016年度より県予算の関係で年1回(3月のみ)になった。
県から指定されたねぐらコロニー18か所の個体数等を調査した。また新しいねぐらコロニーの情報収集を行った。協力会員14名



アオゲラ

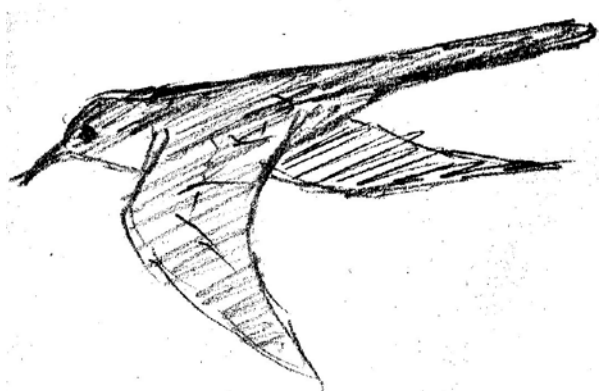
2020年度 活動計画

2019年度 編集部活動報告

1. 会報「しろちどり」：2019年度 100号から103号（計4号）を発行した。100号は記念号とした。
2. ホームページなど：「記録データ」を検索可能な状態にした。データは、野鳥記録報告データ、探鳥会記録データ、全国鳥類繁殖分布調査投稿データの3種で、閲覧には会員としてのログインが必要。

2019年度 事務局活動報告

1. 総会・野鳥講座 2019年6月30日（日）
三重県教育文化会館
2. 理事会 第1回 2019年6月30日（日）
三重県教育文化会館、第2回12月1日（日）
三重県立総合博物館、第3回 2020年3月
29日（日）津市雲出市民センター
3. 日本野鳥の会中部ブロック会議
○第27回中部ブロック会議・岐阜大会
（飛騨にゅうかわ温泉）
2019年6月8-9日 開催 当会から理事3名
が参加した。
4. 2019年度日本野鳥の会連携団体全国総会へ参加
2019年11月9日（土）～10日（日）
千葉県：セミナーハウスクロス・ウェーブ幕張
5. 全国鳥類繁殖分布調査
2016年～2020年まで 三重県内での鳥類
繁殖を調査している



カッコウ

2020年度 保護部活動計画

1. 野鳥保護の観点から不適切な太陽光発電や風力発電について、反対運動を続ける。
2. 木曾岬干拓地の立ち入り調査を継続して（現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で立ち入りのできる人数は限定されている）行い、チュウヒが繁殖できなくなるさらなる開発行為に反対する。
3. 夏季・冬季にミヤコドリ一斉調査を行う。

2020年度 研究部活動計画

1. ガン・カモ・ハクチョウ類調査
例年通り調査を実施する。
2. モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査
3. 県委託 カワウねぐらコロニー調査
受託する予定

2020年度 編集部活動計画

1. 会報「しろちどり」を年4回発行する。誌面の充実に努める。
2. 会ホームページの充実に努める。
3. 探鳥会等の開催案内（中止案内）などをSNS
ツイッター（アカウント @wsbj-mie）で発信
する。 ※2020年度は実験期間

2020年度 事務局活動計画

1. 総会（新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止）
2. 理事会 3～4回を予定
3. 中部ブロック会議
（新型コロナウイルス感染拡大の影響により、
1年先2021年6月に開催予定）
4. 日本野鳥の会連携団体全国総会（2020年度より中止）
5. 全国鳥類繁殖分布調査（2020年度で終了）

日本野鳥の会 三重 令和2年度（2020年度）予算書（案）

令和2年度 自2020年4月1日 至2021年3月31日

単位：円

科 目	元年度決算	令和2年度予算	比較増減	備 考	令和2年度予算会計区分	
	一般・特別合算	一般・特別合算			一般会計	特別会計
<事業高>						
支部会費	582,000	580,000	-2,000	2000円/1人	580,000	0
受託収入	682,240	650,000	-32,240	カワウ・ガンカモ調査	0	650,000
受取補助金	0	0	0		0	0
受取寄付金	26,273	0	-26,273		0	0
事業高合計	1,290,513	1,230,000	-60,513		580,000	650,000
事業利益	1,290,513	1,230,000	-60,513		580,000	650,000
<事業管理費>						
支払調査費	390,854	390,000	-854	カワウ・ガンカモ調査	0	390,000
通信費	198,479	220,000	21,521	会報送料他	182,000	38,000
印刷費	214,880	220,000	5,120	会報発行	217,000	3,000
消耗品費	63,455	85,000	21,545		78,000	7,000
会場費	21,776	25,000	3,224		20,000	5,000
会議費	3,381	5,000	1,619		4,000	1,000
旅費交通費	306,575	380,000	73,425	会議・調査・旅行補助等	250,000	130,000
支払手数料	21,600	21,600	0		14,600	7,000
講師謝礼金	0	33,000	33,000		33,000	0
図書費	0	3,000	3,000		2,000	1,000
諸会費	5,000	5,000	0		5,000	0
雑費	15,935	21,700	5,765		16,700	5,000
事務費	40,000	30,000	-10,000	カワウ・ガンカモ調査	0	30,000
保険費	12,950	15,000	2,050		0	15,000
一般管理費合計	1,294,885	1,454,300	159,415		822,300	632,000
事業総利益	-4,372	-224,300	-219,928		-242,300	18,000
<事業外収益>						
受取利息	29,739	0	-29,739		0	0
雑収入	0	0			0	0
事業外収益合計	29,739	0	-29,739		0	0
当期純利益	25,367	-224,300	-249,667		-242,300	18,000
<税金等>						
法人税等	77,900	75,700	-2,200		0	75,700
税引後利益	-52,533	-300,000	-247,467		-242,300	-57,700

*一般会計で242,300円の赤字、特別会計で57,700円の赤字、差引税引後利益は△300,000円となる。

野鳥記録 (2020年01月30日から2020年04月29日までに報告があったもの)



野鳥の種類名	個体数	観察日 2020年	観察場所 (三重県)	雄 / 雌 / などの区別	記録報告者名	脚注
コホオアカ	1	2月 9日	松阪市飯高町 農耕地		西村 四郎	1
マミチャジナイ	1	2月 11日	松阪市の自宅の庭		小野 新子	2
ハチジョウツグミ	1	2月 1日	明和町八木戸		西村 四郎	3
ウグイス	1	2月 16日	いなべ市大安町 両が池	雄 初鳴き	安藤 宣朗	4
ツグミ (白変)	1	3月 8日	四日市市場町		三曾田 明	5
ホウロクシギ	1	3月 21日	鈴鹿川派川	成鳥	今西 純一	6
ハヤブサ	1	3月 20日	鈴鹿市 白子港近く		寺尾 日那	7
キレンジャク	4	3月 8日	四日市市 笹川東公園		笹間 俊秋	8
キレンジャク	2	3月 12日	四日市市 伊坂ダム		笹間 俊秋	9
マミチャジナイ	1	3月 27日	四日市市 北勢中央公園		鈴木 健真	10
クマタカ	2	3月 27日	鈴鹿山脈	雄、雌	笹間 俊秋	11
ハイイロチュウヒ	1	3月 28日	いなべ市大安町 丹生川	雌タイプ	鈴木 健真	12
ヤツガシラ	1	3月 26日	志摩市片田		小坂 里香 代理報告	13
ヒレンジャク	70	3月 28日	いなべ市北勢町 青川		鈴木 健真	14
コチョウゲンボウ	1	3月 30日	桑名市多度町南之郷	雌	鈴木 健真	15
チュウヒ	1	3月 30日	桑名市多度町 揖斐川		鈴木 健真	16
キレンジャク	5	3月 31日	いなべ市北勢町		鈴木 健真	17
ミゾゴイ	1	4月 5日	津市美杉町	参考情報	会員外	18
ヒレンジャク	155	4月 5日	いなべ市大安町		鈴木 健真	19
ヒガラ	1	4月 7日	いなべ市 屋根のない学校		鈴木 健真	20
オオルリ	1	4月 5日	尾鷲市 旧矢ノ川峠	雄 初認	山添 欽也	21
キレンジャク	1	4月 5日	松阪市曾原町		寺尾 日那	22
ヤマシギ	1	3月 21日	津市榊原池付近の林道	(落鳥)	前田 聡	23
ミゾゴイ	2	4月 9日	多気郡多気町内の林道		前田 聡	24
セイタカシギ	1	4月 11日	五主 淡水池		鈴木 健真	25
キレンジャク	6	4月 13日	菟野町 県民の森		鈴木 健真	26
白色のカラス	1	3月 25日	四日市市寺方町		浅野 サキ子	27
コマドリ	1	4月 16日	津市 香良洲公園		前田 聡	28
コサメビタキ	1	4月 18日	四日市市 垂坂公園		今西 純一	29
センダイムシクイ	1	4月 19日	四日市市 垂坂公園		今西 純一	30
サンショウクイ	1	4月 19日	四日市市 垂坂公園		今西 純一	31
コマドリ	1	4月 19日	四日市市 垂坂公園		今西 純一	32
ビンズイ	2	4月 19日	四日市市 垂坂公園		今西 純一	33
コマドリ	3	4月 19日	菟野町 三重県民の森		三曾田 明	34
ヒレンジャク	7	4月 19日	志摩市阿児町安乗		鈴木 健真	35
ヒメウ	5	4月 19日	志摩市阿児町安乗		鈴木 健真	36
キビタキ	1	4月 23日	亀山市		唐津 敏明	37
エゾムシクイ	2	4月 26日	四日市市 垂坂公園		今西 純一	38
キビタキ	4	4月 26日	四日市市 垂坂公園	雄	今西 純一	39
ツクシガモ	2	1月 11日	四日市市 鈴鹿川河口	2月 18日まで滞在	安藤 宣朗	40
チシマシギ	1	2019年 11月 21日	三重県中部	幼鳥?	田中 洋子	41

脚注

1. カシラダカ 15羽くらいの群れの中にいました。左下、カシラダカです。
2. 庭の水飲み場で水浴びをしていた。一昨年は一か月余り庭に通ってきていたが昨年は見なかった。

3. フィールドではツグミと違う違和感がありました。下面のオレンジ色が少ないので、中間型と思います。
4. ウグイスの初鳴き両が池探鳥会の時、暖冬のせいか2月中旬に初鳴きを聞いた。
5. 白い鳥がいたので「なんだろう」としばらく観察していたら、ツグミでした。世界のツグミで全身がこのような白い種はないことは調べた。
6. ダイシャクシギと異なり腹が褐色。とても警戒心が強く50mぐらい離れて待っていても全く近寄ってきませんでした。
7. 知人が観察したので代理投稿しました。住宅地の道沿いでカモを食べていたそうで驚きました。
8. 近所の会員の方が散歩をしていると公園に30羽ほどのレンジャクの群れを見つけました。翌日、撮影に行くとヒレンジャク50羽、キレンジャク4羽を確認しました。
9. 15羽ほどのレンジャクの群れがいて、その中に2羽のキレンジャクがいました
10. 芝生の上のツグミを1羽ずつ確認していくと、マミチャジナイが1羽だけ混じっていました。ツグミがマミチャジナイを追い払う姿が何度も見られました。
11. 峰の上空をつがいでディスプレイ飛行を何度もしていました。
12. 田園の上を猛禽が。腰が白い！ハイチュウだ。
13. 芝生庭で採餌のあと飛び立った。知人(吉田賢治氏)の代理報告です。
14. 27日の暗くなりかけた時間に自宅近くで70羽のレンジャクの群れを発見。翌朝も数は少し減っていましたが44羽を確認。レンジャクの当たり年を実感しました。
15. 低い電線で休んでいた。
16. 河原の見晴らしのよい木にジッととまっていました。
17. 自宅近くでキレンジャクを確認しました
18. 鳴き声のみ、録音データからミゾゴイと判断した。(木村寿志氏提供)
19. 途中で群れが分散してしまいましたが155羽まで数えました。恐らく200羽近くの群れでした。
20. 標高の低い場所で越冬していたのでしょうか。1羽だけでした。盛んに餌をとっていました。
21. 2020初認1匹
22. この辺りでは初めて見ました。写真の木と近くの庭先のピラカンサの木を往き来していました。
23. 死骸のあった場所の前には、約4メートルの大きな岩が立ちふさがっており、それに激突したものとされる死骸硬直は進んでいなかったことから、その日の午前中に衝突事故があったと思われる。
24. 車で林道を走行中、道路脇の草地から順次2羽が小川を越えて対岸の杉林に飛び出したもので、昨年も約500メートル離れた場所で、親鳥2羽が雛5羽を巣立ちさせた様子を観察したものであり、今年も2羽の姿を発見したことから、繁殖を期待したい。
25. 写真は中央奥がセイタカシギ。左からアオアシシギ、オオハシシギ、ツルシギです。
26. 大雨の中、まだ残っているクロガネモチの実を食べていました。
27. いつもカラスがたくさんいる所ですが、一羽だけ、白色のカラスがいて、電線に止まっていて、黒いカラスが人間に例えると、あんた誰、なにもん、と言う様なかんじで、周りを飛び交っていました。
28. 香良洲公園を探鳥中、南端の樹木の根元でエサを探す姿を発見。
29. ぐせりながら高い木の上を移動していました。
30. 姿を見れたのは1羽だけでしたが、あちこちでさえずっていました。昨年より1週間早い初認となりました。
31. ピリリリと鳴きながら上空を通過していきました。3か所で確認したので1羽以上いるようです。
32. 3か所以上から同時にさえずりが聞こえていたので1羽以上いると思われます。昨年は4/21が初認でしたので、ほぼ同時期となります。
33. 渡りの途中と思われます。とても警戒心が強かったです。
34. 毎年、同じ時期、同じ場所に来てくれます。1日前から囀っていたようです。
35. 海沿いの木にヒレンジャクが7羽いました。
36. 浜から少し近くの海上とテトラポットの上にヒメウがいました。顔に夏羽の赤味が出ていました。
37. 道路際で水場だったので発見出来ました。
38. 昨年は4/27が初認ですのでほぼ同じ時期となりました。2か所でさえずりを確認しました。
39. 今年はキビタキが遅いなと思っていましたがようやく確認できました。1か所でさえずり、1か所で雄1羽、1か所で雄2羽の争いを確認しました。
40. この地域での飛来は珍しい、吉崎の後背池と行き来していた。
41. ハマシギの群れの中に見たことのないシギを見つけた。どうやらその日の短時間だけの出現だったようです。



コホオアカ：西村 四郎



ハヤブサ：寺尾 日那



ヤツガシラ：吉田 賢治



ツグミ (白変)：三曾田 明



チュウヒ：鈴木 建真



ヤマシギ：前田 聡



サンショウクイ：今西 純一



ハチジョウツグミ：西村 四郎

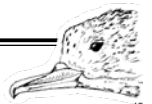


キビタキ：今西 純一



チシマシギ：田中 洋子

探鳥会予告 7月－9月



予定されていた下記の7月、8月の探鳥会は探鳥会としては中止し、リーダーだけで探鳥し、記録をとります。

- 7月26日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行！
- 8月23日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行！
- 8月30日(日) 揖斐川ツバメのねぐら入り探鳥会

9月以降は以下の探鳥会を予定していますが、コロナウイルスの状況によっては中止する場合があります。各リーダー、ホームページ、事務局などにお問い合わせください。

- 9月8日(火) 海蔵川で鳥見ing! (バードウォッチング) その3 小雨決行！
開催地／四日市市西坂部町 海蔵川沿い
集合／ 9:45 海蔵川代官橋 北詰
解散／ 12:00 集合地
- 9月12日(土) 五主探鳥会 小雨決行！
開催地／松阪市 五主海岸
集合／ 9:30 雲出川右岸堤防河口 五主海岸コーナー
解散／ 11:30 現地

- 9月22日(火) 庭田山タカ渡り探鳥会
開催地／海津市 庭田山頂公園
集合／ 10:00 庭田山頂公園駐車場
解散／ 13:00 集合地

- 9月26日(土) 答志島タカ渡り探鳥会
※会員と家族・入会予定者 限定
開催地／鳥羽市 答志島(定期船で渡ります)
集合／ 7:30 鳥羽市佐田浜マリンターミナル
(8時発 答志行きに乗船)

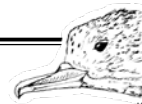
解散／ 11:30 現地
備考／参加予約必要 小坂里香 090-6097-3283

- 9月27日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行！
内容は、7月26日と同じです。

- 9月27日(日) みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会
小雨決行！

開催地／奈良県宇陀郡御杖村菅野 みつえ高原牧場
集合／ 8:00 近鉄名張駅 西口前
解散／ 12:00 現地
備考／参加予約必要 南 一朗 090-6594-0383
田中 豊成 090-4088-3164

参加費は無料ですが、乗り合わせの場合1人300円を、車の提供者さんに支払います。



●大淀海岸探鳥会

2020年1月26日(日) 9:30～11:30

多気郡明和町 大淀海岸周辺

岡本忠佳 中村悦子 参加者4名(会員3名)

ヒドリガモ、ホシハジロ、スズガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、ヒメウ、カワウ、アオサギ、オオバン、シロチドリ、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、トビ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ミミカイツブリ、ドバト、計30種

朝からずっと雨が降っていて、でも「小雨決行」なので集合時間まで待っていると2名来て下さり、計4名での探鳥会でした。

漁港内のカモ、カモメ類の個数が少なく、海岸のテトラにはウが6羽しかいませんでしたが、2羽がヒメウでした。シロチドリの群れとツグミ、モズ、ホオジロがボサボサ頭で出てくれて、雨の中30種観察できたのでよかったですと思います。

なお、鳥合わせの時には雨が上がりました・・・。

●鈴鹿青少年の森探鳥会

2020年2月9日(日) 10:00～12:00

鈴鹿市 県営鈴鹿青少年の森

共催団体/鈴鹿市環境政策課

藤井英紀 市川美代子 参加者27名(会員16名)

マガモ、カルガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、オオバン、ユリカモメ、ミサゴ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、アオジ 計24種

風が強く雪がちらつく中でしたが、24種類確認できました。鈴鹿市役所との共催なので、会員外の方や親子での参加者も多く、随所で楽しんで頂きました。

青少年の森の探鳥会では初めて、ミサゴが観察されました。

●丹生探鳥会

2020年2月15日(土) 9:30～11:30

多気郡多気町 丹生

中村洋子 西村四郎 参加者18名(会員11名)

キジバト、アオサギ、トビ、コゲラ、モズ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ 計25種

この日は曇り空なので、林の中からビンズイ、メジロ、ヤマガラ等の声が聞こえますが、姿は見えませんでした。

田んぼで、セキレイ3種、ハク、セグロ、キセキレイが現れた。

タカ類は、上昇気流が無い為トビ1羽しか出現しませんでした、残念に思いました。

多気町の広報に探鳥会の案内を掲載してもらったので、地元の方が多数参加してもらいました。

●両ヶ池探鳥会

2020年2月16日(日) 9:30～11:00

いなべ市大安町石樽東 両ヶ池公園

安藤宣朗 参加者3名(会員3名)

オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、オオバン、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ 計26種

昨夜から全国的に雨模様、当観察地も朝から春雨程度の「しとしと」した雨が降っていた。こんな天気に参加者は居ないだろうと思いながら現地へ出向いたところ、2名の熱心な方が参加されており、折角だからと言うことで雨の中、観察コースを一周した。

上池には、お目当てのミコアイサをはじめハシビロガモなどの9種類のカモ類、池周辺の林や田んぼには、イカル・ツグミ・ジョウビタキなどが観られ全26種を観察した。

特筆すべきは、暖冬のせいなのか早くもウグイスの初鳴きが聞かれたのにはびっくり！！

●五十鈴川周辺探鳥会

2020年2月16日(日)開催予定でしたが、雨天の為中止しました。

●三滝川かんさつ会

2020年2月22日(土)9:30~11:40

三重郡菰野町 三滝川河川敷

矢田栄史 宮本英子 参加者11名(会員7名)

キジバト、カワウ、イカルチドリ、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計21種

全天のくもり空、雨を気にしつつスタート。すぐにツグミ、スズメ、メジロが姿を見せてくれて、しばらく観察する。

ヨシ原ではオオジュリン多数。なかなか姿は見られないが動きを見る。

ベニマシコの声、エナガペアが巣材を運ぶ。

地面に落ちている巣と、クワの木に残っている巣の説明をする。どちらも、何の巣かは分からないけど、くちばしだけでつくりあげる鳥のすごさを伝える。

雨が降り出し、予定より早く終わりました。

●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2020年2月23日(日)9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者19名(会員15名)

キジ(4)、オカヨシガモ(15)、マガモ(2)、カルガモ(10)、ハシビロガモ(6)、コガモ(100)、ホシハジロ(1)、キンクロハジロ(3)、スズガモ(3)、カイツブリ(4)、キジバト(3)、カワウ(60)、オオバン(7)、タゲリ(40)、ケリ(4)、タシギ(3)、イソシギ(2)、カモメ(2)、ミサゴ(6)、トビ(7)、チュウヒ(1)、オオタカ(1)、ノスリ(1)、カワセミ(1)、チョウゲンボウ(1)、モズ(1)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(20)、ヒバリ(7)、ヒヨドリ(3)、メジロ(2)、ムクドリ(200)、ツグミ(20)、ジョウビタキ(2)、スズメ(70)、ハクセキレイ(100)、セグロセキレイ(10)、タヒバリ(118)、カワラヒワ(7)、ホオジロ(2)、アオジ(3)、オオジュリン(3)、ドバト(100) 計43種

風が強くて、初めての冬らしい探鳥会となりました。

ハクセキレイとタヒバリがそれぞれ100羽ほど、水田でエサを一緒に食べていました。

●津借楽公園探鳥会

2020年2月23日(日)10:00~11:30

津市広明町 津借楽公園

岡八智子 奥山正次 参加者24名(会員9名)

キジバト、ミサゴ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ビンズイ、カワラヒワ、シメ、アオジ、ドバト 計20種

大木もアチコチ伐採され、落ち葉もしっかり掃除されて明るい公園になり、鳥も少なくなりました。それでも常連さん達は出てくれて、初めてスコープを覗かれた方には喜んで頂けました。

最後に、池のカワセミに皆さん歓声を上げて、しっかり見てもらえました。

●石垣池探鳥会

2020年3月1日(日)10:16~10:45

鈴鹿市石垣3丁目 石垣池

市川美代子 参加者4名(会員3名)

ヒドリガモ、マガモ、コガモ、カワウ、オオバン、ハシブトガラス、ジョウビタキ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ 計10種

新型コロナウイルスの影響で、探鳥会は中止とのことでしたが、市の広報に掲載していただいたのが1か月前でしたので、市民の方も来ていただきました。

池を半周、時間も30分、全員マスクをしての探鳥会となりました。少しの時間でしたが、市民の方が、カモが美しいと、ニコニコと帰って下さり、ホッといたしました。

●身近な冬鳥を観察しよう(安濃川河口)

2020年3月8日(日)開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止しました。

●海蔵川で鳥見ing!(バードウォッチング)

2020年3月10日(火)開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止しました。

●宮リバー公園探鳥会

2020年3月21日(土)開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止しました。

●木曾岬干拓地（探鳥会）

2020年3月22日（日）9：00～12：00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 米倉 静

参加者3名（会員3名）

キジ(2)、オカヨシガモ(30)、カルガモ(10)、ハシビロガモ(15)、コガモ(23)、ホシハジロ(7)、キンクロハジロ(5)、スズガモ(17)、ミコアイサ(1)、カイツブリ(2)、キジバト(6)、カワウ(100)、アオサギ(5)、オオバン(10)、ケリ(20)、コチドリ(1)、タシギ(2)、チュウヒ(3)、オオタカ(1)、ノスリ(2)、カワセミ(1)、ハヤブサ(1)、モズ(3)、ハシボソガラス(60)、ハシブトガラス(20)、ヒバリ(20)、ツバメ(5)、ヒヨドリ(10)、ウグイス(5)、メジロ(5)、セッカ(3)、ムクドリ(33)、シロハラ(1)、ツグミ(50)、ジョウビタキ(1)、スズメ(30)、ハクセキレイ(4)、セグロセキレイ(3)、カワラヒワ(3)、ホオジロ(4)、ドバト(150) 計41種

コロナウィルスのために探鳥会は中止になりました。

25年以上休まず続けてきているため、調査としても重要と考え3名のリーダーで観察をしました。

●五主（探鳥会）

2020年4月11日（土）9：00～11：00

松阪市 五主海岸・大池

西村四郎

オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、シロチドリ、ミヤコドリ、セイタカシギ、オオハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、ツルシギ、ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ツバメ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、計33種

コロナの影響で一人探鳥のつもりでしたが、何名かお見えになりました。

最初に大池に寄ったのですが、久々にセイタカシギを見ました。黒くなったツルシギ、オオハシシギも健在でした。カモ類もいました。

雲出川河口に移動しましたが、潮の影響で少し遠かったです。それでも、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、ミヤコドリなどを楽しめました。ミヤコドリは73羽カウントしました。

五主海岸は今年から禁漁区となり、河口の一部のみが解放されています。ますます条件が悪くなります。11時頃にはたくさん人が集まりだして、終了としました。

●木曾岬干拓地（探鳥会）

2020年4月26日（日）9：00～12：00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者3名（会員3名）

オカヨシガモ(1)、マガモ(2)、カルガモ(7)、ハシビロガモ(1)、コガモ(40)、スズガモ(3)、キジバト(1)、カワウ(30)、アオサギ(15)、ダイサギ(8)、オオバン(4)、ケリ(7)、コチドリ(3)、チュウシャクシギ(3)、タカブシギ(4)、トビ(1)、チュウヒ(1)、モズ(1)、ハシボソガラス(30)、ハシブトガラス(40)、ヒバリ(15)、ツバメ(1)、ヒヨドリ(23)、ウグイス(5)、センダイムシクイ(5)、セッカ(15)、ムクドリ(26)、ツグミ(4)、スズメ(50)、セグロセキレイ(2)、カワラヒワ(1)、ホオジロ(3)、ドバト(30) 計33種

探鳥会は中止のため、3名が別々に車で回りました。終了後、3人はそれぞれ社会的距離以上に離れて、種名・個体数を確認しました。

●瀬戸林道（探鳥会）

2020年4月29日（水・祝）9：30～12：40

津市美里町桂畑 瀬戸林道

奥山正次 落合 修 参加者3名（会員3名）

トビ、クマタカ、アオゲラ、カケス、ハシボソガラス、ヤマガラ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、キバシリ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ 計20種

暖かい晴天で風も無く、絶好の探鳥日和でした。中止が残念！

集合場所の照明塔に作られた巣で、ハシボソガラスが2羽のヒナにエサを与えていました。コシアカツバメは今年も健在で、巣に出入りしていたので、元気なヒナを育てて欲しいです。

桂畑のイワツバメはたくさん巣に出入りしていたので、給餌でしょうか？

瀬戸林道では、キバシリらしき鳴き声と、一瞬ですが姿も見えました。時間延長でクマタカを待つと、3年目の幼鳥が何回か姿を見せてくれました。

『ひとり探鳥』 海蔵川中流

場所：海蔵川中流（西坂部町周辺）

日時：2020年4月8日（水）

10：30～11：45 晴れ

安藤宣朗

カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、チュウサギ、バン、ケリ、カワセミ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス（鳴き声）、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、アオジ 計22種類

朝から快晴、鳥を見ながらいつもの散歩道を歩く、満開の桜とウグイスのコラボを堪能しながら山道を経て川へ、まだ北帰していないカモたちを観た至福の一時であった。

『ひとり探鳥』 鈴鹿川河口、楠海岸

場所：鈴鹿川河口から楠海岸

日時：2020年4月26日（日）

12：30～13：50 晴れ

安藤宣朗

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ（5羽）、コサギ、シロチドリ、メダイチドリ（26羽）、イソシギ（1羽）、オバシギ（1羽）、トウネン（3羽）、ユリカモメ、ウミネコ

シギ、チドリの渡りを中心に一人探鳥。この時期メダイチドリ、チュウサギは常連ですが久し振りに夏羽のオバシギが見られたのが収穫でした。ただ、例年に比べて種類、個体数ともに少ないのが気になります。

『ひとり探鳥』 裏山

場所：いなべ市北勢町

日時：2020年5月1日

鈴木健真

キジ、キジバト、コゲラ、サンショウクイ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、エゾムシクイ、メジロ、アカハラ、キビタキ、オオルリ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイ 計19種

家から裏山までは道路を挟んですぐですので、気が向いたら観察に行くようにしています。野鳥を本格的に見始めてから2年で家の周り及びこの裏山で観察できた野鳥は67種です。

山の環境はスギが中心ですが意外と鳥はいます。この日はアカハラを今季初認しました。

夏鳥は14日のオオルリでスタート。キビタキ、センダイムシクイ、エゾムシクイ、サンショウクイ、ヤブサメ、コマドリを確認しました。例年ですと5月中にはサンコウチョウがやってきます。去年はアカショウビンの声も確認できました。

遠征できない今、家の周りを散歩しながら身近にいる鳥を観察しましょう。思わぬ出会いがあるかもしれません・・

編集後記

この春、サシバを探しに出かけた。地図であらかじめ地形を見て、水田が谷筋に入り込み、水田が耕作されていて、さらに人家の無い場所。結構あちこちにあるのだが、実際に歩いて見て、サシバがいたのはほんのわずか。田植えの前、水が張られ、カエルが鳴き、周囲の山は新緑だが、なぜかサシバはいない。カエルは鳴いていてもたくさんいるのか少数なのか分からない。周囲の林はやはりシカの害で下草が極端に少ない。そのせいで餌動物が少ないのか？それとも繁殖に帰ってくるサシバそのものが少なくなってしまったのか。

今回の編集からパソコン上で3人の会議ができるようになった。互いに感染の可能性がなくなるし、時間的にも楽になる。ありがたい。でも人と会うのもまた楽しいものである。(M. H.)

しろちどり 104号

2020年6月1日発行

題字：濱田稔

表紙絵：中村真理子

カット：平井正志

編集：平井正志・笹間俊秋・三曾田明

発行所：日本野鳥の会三重

平井正志 方

〒514-2325 津市安濃町田端上野910-49

ホームページ <http://miebird.org/>

印刷：株式会社プリントパック

〒617-0003 京都府向日市